

日本動物看護学会(第30回例会)/日本動物看護職協会合同セミナー 感想レポート

黒瀬 範子

はじめに

動物看護職の国家資格化にともなう統一資格試験の必要性と、動物病院における看護師の役割を再考するべく、セミナーに参加した。

内容

代表挨拶 桜井富士朗

①『動物看護職の統一試験を推進する必要性』

講師：太田光明

②『あるべき統一試験の内容を探る～認定団体における試験問題の分析結果』

発表：横田淳子

③『満足度調査から読みとく飼い主さまののぞむ動物病院』

講師：島村麻子

④『動物病院における看護機能を評価するには？』

発表：遊座晶子

結果と考察

各講師、発表者ともに盛り沢山の内容を準備されていたにもかかわらず、限られた時間であったために全てを語りつくせなかった、という観があった。

- ① ペットフード協会による犬・猫の飼育頭数の変化と、日本の人口及び人口比率の変化とがグラフによって提示された。誰もが推測するとおりに、少子化が進み、高齢者の割合が増えていくのと同時に犬猫の頭数が増えていく可能性が示唆されている。これにより、動物看護師の存在の必要性は高まっていくと考えられる。さまざまな問題（セミナープロシーディング p.30）を孕んだ現職の動物看護職を、公的保証をともなう国家資格へと推進するためには、いくつもの準備が必要である。看護職のレベルアップを図り続け、全国統一の資格試験を実施する環境作りを推進される日本動物看護職協会に敬意をはらいたい。なお、太田氏が共用試験（CBT,OSCE）（コア・カリキュラム）導入案に触れられたことに、興味を持った。問題解決に一石を投じるものであるかもしれない。

- ② 「動物看護学の確立」、「動物看護の職域の確立」、「統一資格から国家資格化への推進」の3点を、資格試験を行なっている認定4団体を比較分析することによって検討する姿勢がみられた。「動物看護学」も「職域」の問題も簡単に定められる事柄ではなく、今後一層の検討が重ねられるべき問題であろう。
- ③ 「十年後の2020年、どこで何をしていますか？」という島村氏の問いかけに、「誰かに用意された座席ではなく、自分で準備した座席に座れるようでありたい」と思った。そのためには、獣医師と同様に、動物看護師も研鑽を続けねばならない。獣医師にはできない、動物医療の一役を担う動物看護師であるよう、病院の中で動物たちと飼い主様にできることを提供していかねばならない。「何が出来るのか？」という問いの答えのいくつかを島村氏に示されたように思える。出来ることは沢山ある。
- ④ 遊座氏は、人医療における「病院看護機能評価表（147項目）を参考に『動物病院看護機能評価表・案（第一部）』を作成し、動物病院でプレテストおよびアンケートを実施された。

- 1.院内組織での機能
- 2.看護職員の活用に関する機能
- 3.患者動物および飼い主サービスに関する機能
- 4.看護サービスの運営に関する機能
- 5.看護サービスの質に関する機能
- 6.患者動物個々への看護に関する機能

以上6点を柱に、94項目を評価の対象として挙げている。今後、『動物病院看護機能評価表』が導入されるべく、動物医療全体の質の向上を望むものである。

まとめ

動物看護職の国家資格化が叫ばれる中で、日本動物看護職協会の諸活動を垣間見ることができたように思う。多岐に亘る問題を突いていく諸氏の姿に頭の下がる思いがする。今後とも、知識を取り入れることを怠らぬようにしたい。